

式 辞

厳しい寒さもようやく和らぎ、日増しに春の訪れが感じられる今日の佳き日に、保護者の皆様のご出席を賜り、ここに大阪府立 泉陽 高等学校第74回卒業証書授与式を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました357名の皆さん、卒業おめでとうございます。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。今日の卒業式を迎えるまでには、通り一編の言葉では言い表すことのできない、たくさんの出来事があったと思います。それらの日々を乗り越えてきた皆さんの努力に対して深い敬意を表したいと思います。

保護者の皆様、お子さまのご卒業おめでとうございます。立派に卒業の日を迎えられたお子さまの姿に感慨もひとしおのことと存じます。お子様を支え、育まれてきたことに対して敬意を表するとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

74期生は、個性豊かな生徒が多い学年で「自分のことは自分で決める」という担任団の方針のもと、生徒たちが自主的に伸び伸びとさまざまなことに取り組んだという印象があります。また、文化部・運動部とも部活動で活躍した生徒が多い学年でした。自由な雰囲気の中で過ごした

3年間で学習面でも後半大きく伸び、自分にとって必要なことは何かを自分で見つける力が付いた学年でした。先生方と生徒の距離が近く、最後まで先生を信頼し、頼っている姿も印象的でした。

74期生の皆さんが過ごした高校生活の後半2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、コロナ禍での新しい生活様式が日常になりました。学校現場も例外ではなく、様々な行事や授業が中止や変更を余儀なくされました。特に、高校生活の一番の思い出になる修学旅行を実施できなかったこと、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、そのような中、多くの学校で中止になった体育祭や文化祭を開催しました。

体育祭では、学年の枠を超えて4つの応援団が、団ごとに競技や応援に取り組みました。特に3年生では、援団長を中心にリーダーシップを発揮して1・2年生を見事にまとめてくれました。泉陽生全員が体育祭のテーマの通り繋がった1日でした。

文化祭では、「走り去る日々に待ったをかけろ！」というテーマのもと、直前に食品を扱う模擬店が中止になったにも関わらず、3年生9クラスがクイズ・ゲーム・展示などに挑戦しました。どのクラスも独創的な思考で、泉陽生の感性と発想力のすばらしさに感動した2日間でした。準備段階から「クラスみんなで盛り上がる」という雰囲気

気が全クラスにあり、大切な時間がゆったりと過ぎていきました。皆さんがこの2年間でそれぞれの生活の中で目にし、経験したことは、将来に亘って貴重な財産になることと思います。

人は結果よりも、そこに至るまでの過程や頑張りを見て感動します。私は、そうした皆さん一人ひとりの営み、そして成長に大きな拍手を送りたいと思います。

このような生徒がたくさん学び、卒業していくこと、それが本校の最大の誇りです。

皆さんは高校卒業後、大学などに進学し、いずれ社会に出て職業につき働くことになります。

18歳の今、将来の夢や希望に胸を膨らませていることと思います。今の気持ちを常に心に持ち続け、大人になっても18歳の自分と会話してください。北京冬季オリンピックで羽生結弦選手が9歳の自分に励まされ、4回転半ジャンプに挑戦した様に。

長い人生を一日に例えれば、皆さんはまだ朝の早い時間を過ごしているにすぎません。これからの長い一日をどのように過ごすのか、どのような道を歩むのか。決めるのは皆さん自身です。

まずは、今の自分にしっかり向き合ってください。そして、これから出会うさまざまな人と意見や思いが一致するとは限りませんが、それでも相手を理解したいという気持ちを持って接することで、相手も自分のことを理解してくれ

るようになります。お互いを尊重し、対話を重ねる中でこそ、「自分たちの常識を超えられる瞬間」が生まれます。

いよいよ泉陽を旅立つ時がやってきました。「今の自分を超える旅」に出ます。そこでは成功することも挫折することもあるでしょう。一生懸命努力してもうまくいかない時もあるでしょう。そんなときは、つぎの言葉を思い出してください。

「原田マハ」さんの「ほんじつはお日柄もよく」という小説のなかの言葉です。

困難に向かいあったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。

3時間後の君、涙がとまっている。

24時間後の君、涙は乾いている。

2日後の君、顔を上げている。

3日後の君、歩き出している。

どうだい？ そんなに難しいことじゃないだろう？

だって人間は、そういうふうにできているんだ。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多いことを心からお祈りして式辞といたします。

令和4年3月1日

大阪府立 泉陽 高等学校長 武田 温代